

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2020年7月15日

【四半期会計期間】 第40期第3四半期(自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 社長室長 土屋 昭弘

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 社長室長 土屋 昭弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第3四半期 連結累計期間	第40期 第3四半期 連結累計期間	第39期
会計期間	自 2018年9月1日 至 2019年5月31日	自 2019年9月1日 至 2020年5月31日	自 2018年9月1日 至 2019年8月31日
売上高 (千円)	12,219,420	11,673,283	16,252,889
経常利益 (千円)	861,590	785,392	1,014,876
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	667,653	441,821	783,292
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	624,928	455,392	738,136
純資産額 (千円)	9,996,640	10,213,617	10,109,847
総資産額 (千円)	18,263,164	18,275,417	18,327,080
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	47.47	31.42	55.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.7	55.9	55.2

回次	第39期 第3四半期 連結会計期間	第40期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年3月1日 至 2019年5月31日	自 2020年3月1日 至 2020年5月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.75	6.33

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルスの感染症拡大による事業への影響については、現時点においては販売の一部に留まっておりますが、今後の推移状況を注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、当初は、企業収益が高水準を維持し、雇用・所得環境は継続的な改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。しかし、本年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界規模での感染拡大により、国内外での経済活動は急激に縮小しており、先行きの不透明感は強まっております。

当社グループが属する健康食品市場は、通信販売チャネルにおいて在宅率の高まりなどにより利用機会の増加がみられたものの、小売・卸販売チャネルにおいては、インバウンド需要の減少や外出自粛による影響が出ております。

このような状況の下当社グループでは、美容商材の伸長により海外部門の売上高が前年同期比2桁増となったものの、乳酸菌・酵母関連商品の受注が減少したOEM部門が減収となったほか、店舗閉鎖や新型コロナウイルス感染症による休業などにより店舗販売部門も減収となり、第3四半期の連結売上高は11,673百万円（前年同期比4.5%減）、営業利益は788百万円（前年同期比5.9%減）、経常利益は785百万円（前年同期比8.8%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益が減少したほか、貸倒引当金繰入額や投資有価証券評価損などの特別損失を計上した影響も加わり、441百万円（前年同期比33.8%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（ヘルスケア事業）

・OEM部門

当社グループの主力事業である当部門は、マスク着用が常態化する中で、口臭対策のニーズの高まりにより口腔ケア商品が好調な売れ行きとなりました。また、プロポリスやビタミンも堅調に推移いたしました。一方、インバウンド需要のある免税店やドラッグストア業顧客からの受注が減少したほか、前年同期に好調であった乳酸菌・酵母関連商品の受注が減少したことなどにより、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

機能性表示食品については、前期に続き、商品開発、届出のサポートを強化しております。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、シンガポールをはじめ、ほとんどの国においてロックダウン措置により経済活動が停滞しており、特に外出制限下において美容商材に影響が出ております。当累計期間では、インドネシアの顧客において、美容商材が大きく伸長したことにより、当部門の売上高は前年同期比2桁増となりました。

・通信販売部門

記事広告などの新聞広告ならびにTVショッピングを展開し、新規顧客の獲得が順調に推移いたしました。また、新規顧客へのフォローを強化し、リピート率の向上に努めました。ネット受注においては、定番人気商品『薬用アミノ酸シャンプー爽快柑』などを商材としたアフィリエイト広告投下により同シリーズの受注が伸びました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

・卸販売部門

主力商品『華舞の食べるコラーゲン』をはじめとした華舞シリーズが順調に推移いたしました。販路拡大及び販売強化を目的として積極的に展示会や販売会へ出展いたしましたが、3月以降、中止が続いており、また、外出自粛や海外販売を行う国内事業者からの受注が停滞するなど新型コロナウイルス感染症の影響が出ております。その結果、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・店舗販売部門

昨年9月に人気商品『ラ・ヴィ・プラセンタ』のパッケージをリニューアルし、販売を強化したほか、催事、セミナー、相談会などを積極的に実施いたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、催事の中止、店舗の休業や営業時間短縮、ならびに、店舗数の減少による減収が影響し、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高10,681百万円（前年同期比5.3%減）となったものの、粗利益率の改善に加え、広告宣伝費などの節減効果により、営業利益1,212百万円（前年同期比2.7%増）（全社費用調整前）となりました。

（医薬品事業）

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、ジェネリック医薬品である『タダラフィル錠』（勃起改善薬）を本年4月末に上市し、売上・利益に寄与しました。また、重点販売商品として位置付けている自社製造医療用ジェネリック医薬品『ピム口顆粒』（下剤）をはじめ、『フィナステリド錠』（AGA治療薬）、『シルデナフィル錠』（勃起改善薬）が順調に売上を伸ばしました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が992百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益6百万円（前年同期は33百万円の営業損失）となりました。

財政状態

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ55百万円増加し、9,684百万円となりました。この増加要因は主として、控除科目である貸倒引当金が73百万円増加した反面、原材料及び貯蔵品が138百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ107百万円減少し、8,590百万円となりました。この減少要因は主として、投資その他の資産のその他が59百万円、無形固定資産のその他が30百万円増加した反面、償却により有形固定資産全体で190百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ757百万円減少し、6,138百万円となりました。この減少要因は主として、返済期限が到来した1年以内返済予定の長期借入金の借り換えなどにより、短期借入金が725百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ602百万円増加し、1,923百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が到来した1年以内返済予定の長期借入金の借り換えにより、長期借入金が622百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ103百万円増加し、10,213百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が90百万円増加したことによるものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は125,840千円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年7月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,144,720	14,144,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	14,144,720	14,144,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年3月1日～ 2020年5月31日		14,144,720		2,131,839		2,209,025

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年2月29日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 81,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,062,300	140,623	
単元未満株式	普通株式 1,420		
発行済株式総数	14,144,720		
総株主の議決権		140,623	

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	81,000		81,000	0.57
計		81,000		81,000	0.57

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
常務取締役 管理本部管掌	田村茂樹	2020年5月24日

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性8名 女性 - 名（役員のうち女性の比率 - %）

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2020年3月1日から2020年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年9月1日から2020年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,437,201	4,467,447
受取手形及び売掛金	² 2,163,999	² 2,130,489
商品及び製品	1,088,030	1,153,007
仕掛品	819,215	788,899
原材料及び貯蔵品	916,063	1,054,500
その他	236,960	195,773
貸倒引当金	31,920	105,130
流動資産合計	9,629,550	9,684,986
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,853,907	2,754,885
土地	3,895,432	3,895,432
その他(純額)	1,107,052	1,015,487
有形固定資産合計	7,856,393	7,665,805
無形固定資産		
のれん	1,020	255
その他	147,596	178,212
無形固定資産合計	148,617	178,467
投資その他の資産		
その他	714,083	773,710
貸倒引当金	21,563	27,552
投資その他の資産合計	692,520	746,157
固定資産合計	8,697,530	8,590,431
資産合計	18,327,080	18,275,417
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 1,814,273	² 1,914,929
短期借入金	3,593,459	2,867,715
未払法人税等	245,855	120,622
賞与引当金	171,000	255,000
ポイント引当金	19,137	21,435
その他	² 1,052,474	² 958,532
流動負債合計	6,896,200	6,138,233
固定負債		
長期借入金	485,802	1,108,195
役員退職慰労引当金	180,858	193,073
退職給付に係る負債	425,693	452,623
負ののれん	1,126	704
その他	227,552	168,970
固定負債合計	1,321,033	1,923,566
負債合計	8,217,233	8,061,800

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,195,880	2,195,880
利益剰余金	5,913,891	6,004,119
自己株式	59,284	59,314
株主資本合計	10,182,327	10,272,525
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67,431	54,784
為替換算調整勘定	5,048	4,123
その他の包括利益累計額合計	72,479	58,908
純資産合計	10,109,847	10,213,617
負債純資産合計	18,327,080	18,275,417

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年5月31日)
売上高	12,219,420	11,673,283
売上原価	8,786,606	8,282,518
売上総利益	3,432,813	3,390,764
販売費及び一般管理費	2,594,393	2,601,985
営業利益	838,420	788,779
営業外収益		
受取利息	1,404	2,518
受取配当金	11,882	7,533
投資有価証券売却益	20,476	3,748
受取賃貸料	15,133	15,781
負ののれん償却額	422	422
その他	9,608	9,591
営業外収益合計	58,927	39,596
営業外費用		
支払利息	27,767	25,080
投資有価証券売却損	-	563
その他	7,989	17,338
営業外費用合計	35,757	42,982
経常利益	861,590	785,392
特別利益		
固定資産売却益	95,846	175
補助金収入	2,737	4,096
特別利益合計	98,584	4,271
特別損失		
固定資産除却損	14,093	7,821
投資有価証券評価損	-	35,469
賃貸借契約解約損	-	7,227
貸倒引当金繰入額	-	49,393
特別損失合計	14,093	99,910
税金等調整前四半期純利益	946,081	689,753
法人税、住民税及び事業税	291,041	272,973
法人税等調整額	12,613	25,041
法人税等合計	278,428	247,932
四半期純利益	667,653	441,821
親会社株主に帰属する四半期純利益	667,653	441,821

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年5月31日)
四半期純利益	667,653	441,821
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	42,724	12,646
為替換算調整勘定	-	924
その他の包括利益合計	42,724	13,570
四半期包括利益	624,928	455,392
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	624,928	455,392
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 手形割引高

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
受取手形割引高	6,227千円	5,765千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
受取手形	25,032千円	27,574千円
支払手形	69,202千円	66,561千円
その他(設備関係支払手形)	18,872千円	1,991千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)
減価償却費	349,317千円	372,725千円
のれんの償却額	342千円	342千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月27日 定時株主総会	普通株式	140,637	10	2018年8月31日	2018年11月28日	利益剰余金
2019年4月9日 取締役会	普通株式	140,637	10	2019年2月28日	2019年5月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月26日 定時株主総会	普通株式	210,956	15	2019年8月31日	2019年11月27日	利益剰余金
2020年4月9日 取締役会	普通株式	140,637	10	2020年2月29日	2020年5月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	11,274,285	945,134	12,219,420
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	11,274,285	945,134	12,219,420
セグメント利益又は損失()	1,180,159	33,132	1,147,027

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,147,027
全社費用(注)	308,607
四半期連結損益計算書の営業利益	838,420

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	10,681,166	992,117	11,673,283
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	10,681,166	992,117	11,673,283
セグメント利益	1,212,091	6,380	1,218,472

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,218,472
全社費用(注)	429,693
四半期連結損益計算書の営業利益	788,779

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	47円47銭	31円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	667,653	441,821
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	667,653	441,821
普通株式の期中平均株式数(株)	14,063,751	14,063,733

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第40期(2019年9月1日から2020年8月31日まで)中間配当については、2020年4月9日開催の取締役会において、2020年2月29日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	140,637千円
1株当たりの中間配当金額	10円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	2020年5月27日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年7月13日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森田 健司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 嶋田 聖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの2019年9月1日から2020年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年3月1日から2020年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年9月1日から2020年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の2020年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。